

幸橋

<平戸小学校だより18号>

～思いやりのある子供～
～自ら考え工夫する子供～
～たくましい体と実践力のある子供～

令和4年1月31日
平戸市立平戸小学校
文責 校長 山村昭文



書初め展

1月19日(水)の授業参観は中止しましたが、御案内の通り、19日(水)、20日(木)の書初め展は実施しました。コロナの感染状況が広がってきていることもあり参観される方は少なかったようですが、子供たちが頑張って書いた作品を御覧いただけたことは幸いでした。

各学年の書初め題

【硬筆】

- 1年「お正月」
- 2年「元気な子」

【毛筆】

- 3年「正月」
- 4年「元気」
- 5年「世界の国」
- 6年「伝統を守る」

それぞれに力のかもった力作でした。題字でもある「元気」が、コロナが終息し子供たちに満ち溢れる年であることを願うばかりです。そして、早く参観の機会を設けられるようになればと思います。



市P連研究大会北部大会

30日(日)に市P連研究大会が文化センターで開催されました。北部大会ということで本校のPTA本部役員の皆さんは中心となって取り組んでいただきました。コロナ禍の開催でWebも利用したハイブリット開催となり、大会までの準備等大変御苦労されたことだと思います。本校PTA会員の皆様をはじめ、市内各単Pの皆様も多くはWebで参加されたようですが、平戸中学校生徒吹奏楽部のアトラクション(録画)やライブ配信された矢野大和(やのたいわ)先生の講演(口演)は、保護者、教師、地域の方々の子育てへの関わりに示唆をいただくすばらしい内容でした。多くの皆様が共感されたことと思います。市P連役員の皆様、本校PTA役員の実行委員の皆様には本当にお疲れさまでした。



赤い羽根共同募金

運営委員会の子供たちが中心になって、12月に行った「赤い羽根募金」で16,691円が集まりました。子供たち、保護者の皆様の善意に感謝いたします。集まった募金は、運営委員会の子供たちが代表して市の社会福祉協議会へ届けました。そもそも赤い羽根共同募金は、昭和22年(1947年)に市民主体の民間運動「国民たすけあい運動」として始まったそうですが、その名の通りみんなで助け合うことを大切に70年余り続けられてきています。助け合いの精神が着実に根付き、子供たちに受け継がれていくことは、すばらしいことだと思います。



コロナ対応

26日(水)から県下全域に新型コロナウイルス感染症の「まん延防止等重点措置」が発令されました。本校においても、24日(月)に児童の感染が確認されてから、先週は複数の子供の感染が確認されています。こうした事態に伴い、3年1組の学級閉鎖、全校の給食中止などの措置が続きました。2月の授業参観も中止せざるを得ない状況となりました。何かの形で保護者の皆様には子供たちの活動の様子をお知らせしたいと思っています。感染の急拡大で、子供たちの学校での活動も制限されていますが、ほとんどの子供は元気に過ごしています。先にお知らせしているように、感染を防ぐために活動の在り方を工夫しているところです。感染に対する不安もあると思いますが、予防対策をしっかりと行いながら、学校での活動を進めていきたいと考えています。保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いたします。